

平成28年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
11月7日（月）	東仙道地区振興センター	19:00～20:10	16	13	29

○市側出席者

市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書広報課長

2 会の概要

○開会（秘書広報課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 4つの重点分野

①産業振興と交流拡大

産業振興に取り組む上では、高速道路や飛行機などの高速交通網を整えることが重要となる。

高速道路については、浜田から益田間の整備に見通しが立ちつつあり、今後は現時点で事業化に至っていない益田から萩間の整備に力を入れて取り組む必要がある。昨年4月に優先整備区間に指定された小浜～田万川間5kmが今年の6月に計画段階評価に進み、これから事業化に向けた住民アンケートが行われるよう聞いている。この住民アンケートの回収率は地元住民の熱意として重要視されることから、市民の皆様には協力をお願いしたい。

もう一つの高速交通網である萩・石見空港については、まずは、現在の東京線2往復運航を維持することが重要であると考えており、今後も様々な施策を進め利用拡大に努めたい。一方で、夏場だけの季節限定運航となっている大阪便については、本年短縮された運航期間を拡大させ、最終的には通年運航してもらえようとするための取組みを進めていきたい。

交流拡大の面では国際交流に力を入れて取り組みたいと考えている。平成3年に友好交流議定書を締結した中国寧波市とは平成20年を最後に交流が途絶えていたが、25周年の節目に当たる本年は3件の民間交流が図られ、交流再開に向けた動きが進んでおり、こうした流れを定着させることによって、経済や観光の面でも効果を上げていきたいと思っている。

さらに、4年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けて自転車ロードレースの事前キャンプを誘致することとしている。この事前キャンプの誘致により、オリンピックのもつ本来の高い精神、高い理念に市民が直接触れることができる機会を提供したい。

②安心して暮らせる基盤づくり

今から9年後の2025年には団塊の世代の方々が75歳以上の後期高齢者となられ、今よりさらに高齢者福祉を手厚くする必要があると思っている。そのために現在、地域包括ケアシステム（医療・介護・介護予防・生活支援・住宅整備の支援）の構築に取り組んでおり、今後はこの相談窓口となる地域包括支援センターの機能について、民間活力を活用しながら強化していきたいと考えている。

さらに、交通安全や防犯、防災についても関係機関と連携して取り組んでいきたい。

③教育・文化の振興

本年3月に「ひとづくり協働構想」という計画を策定した。これは、「次世代を担う人材」、「しごとを担う人材」、「地域を支える人材」の3つの人材育成をそれぞれ関連づけながら進めていこうとするものである。なかでも次世代育成については、キャリア教育を今より更に充実させるため、市内で活躍する若い方々と子どもたちが触れ合い、意見交換ができる機会をつくっていききたいと考えている。

文化の振興については、益田には様々な遺産や芸術文化の発信拠点であるグラントワなど文化の基盤となる素材が沢山あると思っている。今後は、民間の方々と連携して益田市の文化を広めていくことが大切になると考えており、現在様々な活動団体と話し合う場を定期的に設けている。この取組みをさらに広げ、一つの大きな組織体制の構築や文化の振興のための条例づくり等につなげていきたい。

④行財政改革

現在の大きな課題は財政状況が非常に厳しいことにある。歳出については高齢化が進むことによって高齢者福祉や医療費の増が見込まれ、歳入においては国の交付税収入や人口減少に伴う市税収入の減が予想され、これまで以上に歳出の削減、歳入の確保を進めていかないと今後の行政運営が困難になる。

こうした中で現在ふるさと納税の奨励に取り組んでいる。昨年12月と本年4月には制度の改正と返礼品の充実を行い、結果、平成27年度の納税額は対前年の3倍増となり、本年度は27年度をさらに倍以上、上回るペースで進んできている。今後もさらに魅力を高めて、歳入の確保に努めていきたい。

また、行政内部でも職員の仕事に対する向き合い方を今より積極的なものにしていきたいと考えている。職員を対象に業務改善事例を発表する機会を設けたり、自分のやりたい仕事を提案させる機会を設けて、自らが進んで仕事に取り組む環境づくりを進めている。こうした取組みを進めることによって行政の効果を上げていきたいと考えている。

3. 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ①観光スポットについて
- ②地域自治組織の将来見通しについて
- ③市役所について
- ④これからの益田市について
- ⑤がん診療について
- ⑥国との関係強化について

○ 閉 会 （秘書広報課長）

平成28年度「市長と語り合う会」

〔会場 東仙道地区振興センター〕 開催日時：平成28年11月7日（月）19:00～20:10

要 望 事 項 等	回 答
<p>①観光スポットについて 山口県長門市にある元乃隅稻成神社は、周辺道路が狭いにもかかわらず、沢山の観光客が訪れている。 益田市は海や山など豊かな自然環境に恵まれる状況にあり、これを活かした「観光スポット」をつくるためのアイデアを出して、市の活性化につなげるよう考えてはどうか。</p>	<p>①少しのきっかけが全国的に注目を浴びて、そこに観光客が殺到するという事例がいくつかあり、現在色々と知恵を絞っているところである。 一つに、益田市には、益田家文書や国史跡である益田氏城館跡、中須東原遺跡など中世の歴史遺産が数多く残っている。専門家からも「中世の歴史や研究材料がこれほど揃っている町はない」との高い評価を受けており、こうしたところから掘り起こしていきたいと思っている。 もう一つ、期待をしているのが通行を再開した飯田吊り橋である。市建設部の女性職員の発案で橋の真ん中にはハートマークが施してあり、これを探しながらカップルで橋を渡ってもらえれば良い観光スポットになると思う。 このように、なるべくお金をかけずに効果のあるアイデアを出していきたいと思っている。</p>
<p>②地域自治組織の将来見通しについて 市の広報には、今後財政再建に取り組むにあたり「市民に一層の努力や負担もお願いすることも想定される・・・」という市長のコメントが載っていた。現在、それぞれの地区において地域自治組織の設立に向け一生懸命に取り組んでいるが、この先、お金がなければ必然的に組織としての運営が立ち行かなくなる。 市として、いつまで補助する考えがあるのか。</p>	<p>②現在進めている地域自治組織は、地域の様々な活動について、これまで以上に地域の自主性を発揮していただくことを目的に設立をお願いしているものである。 仮に、地域自治組織の運営が上手くいかなくなって、地域が廃れてしまうような状況になれば益田市にとっても重大な問題となる。財政面や人的面を含め、市の責務として永続的にサポートしていくことが重要であると考えている。</p>
<p>③市役所について 益田に15年住んでいるが未だに市役所に入ることがない。 市役所をオープンにしてもらって市民が利用しやすい市役所にしてほしい。</p>	<p>③昨年6月に市庁舎の耐震補強工事が完了し、工事の前後では建物の外装や内部の様子も随分と様変わりしている。 市の職員が働く場である市役所は、同時に市民が利用しやすい雰囲気であればならないが、来客者に対する職員の対応も以前と比べれば良くなっているのではないかとと思っている。 是非一度市役所を訪れていただきたい。</p>
<p>④これからの益田市について 市長はこれから益田市（市政）をどの様に進めていくお考えか。</p>	<p>④益田市が現在掲げているキャッチフレーズは、「ひとが育つまち益田」である。 益田市では本年策定したひとづくり協働構想に基づき「ひとづくり」に取り組もうとしており、これが上手く機能すれば全国の手本になるのではないかとと思っている。 この「ひとづくり」をこれからの益田市の魅力と強みにし、「ひとが育つまち益田」を追求していきたいと考える。</p>

⑤がん診療について

このほど完成した益田日赤には、がん診療に対応する放射線科が設置されておらず、放射線科で診てもらうためには島根医大や県立中央病院など県東部の病院まで出かけなければならない状況がある。東西の医療の格差を強く感じており、今後のためにも益田日赤に放射線科を設置するよう行政として働きかけを行ってほしい。

⑥国との関係強化について

市政が安定するということは国との関係を築く上でも重要なことである。今後、国との人事交流を進めるなど中央との関係を強化し、市の発展につなげてほしい。

⑤建替え後の益田日赤は、病院側が今後の経営等を考慮され、より適切な規模に設定されたものと聞いている。

一方で、市民の皆様が必要とする医療を提供していただくことも重要なことで、そこは地域医療計画の一部を担う市としても協議をして進めていきたいと考える。

⑥国との関係という意味で言えば、三隅・益田道路の整備については本年度、国から多額の予算を付けていただき、現在順調に工事が進んでいる。これもこれまで何度も国に出かけて地域の実情を訴えてきた効果が出てきたのではないかと考えている。

今後も道路に限らず様々な行政課題に対して中央省庁との連携を深めていきたい。